

## 資料

寄贈作品	寄附者	寄附者在住	点数	経緯	作家プロフィール
久野 和洋	久野 和洋	東京都国分寺市	5	日本の具象絵画の領域における代表的な作家のひとりとして美術界の発展に多大な貢献をされている久野氏と当館との交流と信頼関係により、寄附が実現した。	久野和洋(クノズヒロ) 昭和13年(1938)ー 名古屋市生まれ。1963年武蔵野美術大学西洋画科卒業、同彫刻科に編入。65年彫刻科卒業。73年渡仏、ヨーロッパ古典絵画技法を研究し76年帰国。82年立軌会出品、同人推挙となる。91年文化庁芸術家在外研修員特別派遣でイタリアに研修、主にジョットの絵画技法を学ぶ。2002年武蔵野美術大学教授となる。西洋の古典技法を基礎とし、精緻な画面構成による独自の静謐な絵画世界を表現する。
郷倉 和子	郷倉 伸人 (御子息)	東京都世田谷区	1	当館との交流と信頼関係により、当館の近代日本画の所蔵作品の拡充に賛同いただき、寄附が実現したもの。 なお、今回は御子息から寄附を受ける。	郷倉和子(ゴウクラカズコ) 大正3年(1914)ー 東京谷中に郷倉千靱の長女として生まれる。1935年女子美術専門学校卒業、翌36年より安田靱彦に師事。同年第23回院展に《八仙花》が初入選する。以後、院展に発表を続け、1950年第45回院展に《花苑》を出品し美術院賞を受賞。同年、院展同人となる。1969年に、片岡球子・三岸節子らと女流作家で潮会を結成。一貫して花鳥画を描き、とくに80年代後半からは梅を対象として制作を続ける。1997年、日本芸術院会員。2002年、文化功労者。
嶋 剛	嶋 剛	神奈川県二宮町	2	作家御本人から寄附の申し出を受け、また、優れた価値があるため、寄附を受けることとなった。	嶋 剛(シギゴウ) 昭和18年(1943)ー 東京生まれ。1966年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒。68年東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術修士課程修了。1980-90年滋賀大学教授。1997年-女子美術大学教授。写真を克明に描き出す手法によって描くことの現代的な意味を問い直してきた。写真の光学的な変化を経て印画紙上に等価に生じる粒子を絵具によって再現する初期作品から、多重露光や映像のブレに着目した作品等へと展開している。
平野 杏子	平野 杏子	神奈川県平塚市	4	2007年に当館で特集展を開催している。平塚在住であり、日ごろから当市の芸術・文化振興に御理解と御協力を示されていることから、過去にも作品を寄附していただいた経緯があり、今回も寄附に至った。	平野杏子(ヒラノキョウコ) 昭和5年(1930)ー 伊勢原市に生まれる。共立女子専門学校入学、大久保作次郎に師事。のち長屋勇門下となる。1953年旺玄会会員。1960年から東洋的仏教観にもとづく幻想的な世界を描く。1962年新世紀美術協会を受賞、会員となる。1969年「潮展」同人となる。同年渡仏し、途中寄ったインド文化に触発される。その後磨崖佛のシリーズを始めとした立体作品も制作。1987年には第5回ヘンリー・ムーア大賞を受賞。現在、平塚市在住。2009年紺綬褒章授章。
山本 直彰	山本 直彰	神奈川県鎌倉市	19	2009年に当館で特集展を開催しており、その際に出品された作品を中心に寄附していただけることとなった。	山本直彰(ヤマモトナオアキ) 昭和25年(1950)ー 1950年横浜生まれ。愛知県立芸術大学大学院日本画科修了。創画会賞4回受賞。東山魁夷記念日経日本画大賞展2回入選。1992-93年、文化庁芸術家在外派遣研修員としてチェコ・プラハに滞在する。帰国後は従来の日本画の技法を用いつつも、いわゆる穏健な日本画の世界から離れ大胆かつ斬新な表現を確立する。これにより現代美術に通じる日本画の新たな領域を開拓したと高く評価されている。